

平成 29 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 一般向け講演会 報告書

1. 講演会名：「若年性認知症 県内当事者の活動報告」

2. 日程及び場所 2017年10月6日（金）16時～20時（受付開始 15時半）

会場 てだこホール市民交流室（〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9番3号）

3. 当日の動き

開始 時間	終了 時間	内 容	所要 時間	発表者
15：30		受付開始		受付 真名井
16：00	16：10	開会の挨拶	10 分	司会 中野
16：05	16：10	あいさつの言葉	5 分	県高齢福祉課 課長長浜氏
16：10	16：50	県内の支援報告 後半B型事業所例紹介	40 分	若年性認知症支援C N中野 16:40 当事者登壇（新里勝則氏）
16：50	17：00	休憩	10 分	
17：00	18：00	介護保険事業所発表 ・当事者発表 「小規模多機能施設で働いて います」 ・「若年性認知症の方の関わり からみえたこと」	60 分 内訳 20 分 40 分	司会 中野 当事者登壇：親富祖恵子氏 発表 NPO 法人ライフサポートて だこ 代表 友寄利津子氏
18：00	18：10	休憩	10 分	
18：10	19：20	当事者自助グループ発表 ・当事者グループの発表 ・当事者発表 「就労型活動を通して感じる こと」	70 分 内訳 40 分 30 分	司会 中野 発表：就労型活動グループフンド ウー 代表 西銘吉之氏 当事者登壇：大城勝史氏、親富祖 恵子氏
19：20	19：40	介護家族の活動報告	20 分	司会中野 （公社）認知症の人と家族の会沖 縄県支部 副代表 3 名
19：40	19：50	アンケート記入		司会中野
19：50		閉会の挨拶 片付け開始		事業担当
20：30		撤収		最終確認 中野

4. 広報

5 月 事業からポスターチラシ配布 565 件

5 月～9 月 コーディネーターとしてあいさつ周り及び会議等で案内

（訪問 26 カ所、会議 6 カ所、認知症カフェ 6 カ所、研修会 8 回）

9 月 20・27 日新聞 2 社 広告掲載、無料広告 4 カ所 9 月 21 日～30 日掲載

9 月～10 月県高齢者福祉介護課介護企画班より県内施設 1000 件あまりへ F A X 案内

5. 申し込み数 87名

6. 参加者 83名

内訳：本人7名、家族12名、一般0名、医療従事者9名、介護保険事業所23名、
包括13名、行政12名、企業1名、就労支援事業所5名、一般1名

7. アンケート結果

回答53件 (回答率63.8%)

問. 講演会について感想をお聞かせください。

質問：このような講演会を開催する場合、参加しやすい曜日はいつですか。

月～金の昼	41.5% (22件)
月～金の夜	32.1% (17件)
土曜日の昼	16.9% (9件)
土曜日の夜	3.7% (2件)
日曜日の昼	3.7% (2件)
無回答	1.8% (1件)

質問：本日の感想をお聞かせ下さい。

- ・一般の参加です。初めてこういう会に参加。現実現状を初めて知る。親富祖さんの「認知症は怖くない」は感動的。一般の理解が低い。意識が変わりました。
- ・どの活動も感動でした。沖縄で行われていることを誇らしく思うと同時に、私も頑張ろうと思えました。
- ・すごく大事な活動だと思い感動しました。
- ・すごくパワーをもらいました。
- ・とても貴重なお話を聞けてよかったです。
- ・当事者の方の言葉にとっても励まされました。そして感動しました。私と同じ世代に起きていることだと実感しています。当事者同士の交流、家族の交流がとても重要と思いました。自分に何ができるか出来ることを見つけない。
- ・就労支援B型の話しが出てくるとは思わなかったです。あっという間の時間に驚いています。
- ・いろいろな活動内容をどういう支援をしているのか知ることが出来ました。またしっかりと心を込めて対応することで、相手の方に気持ちが伝わるのが分かりました。
- ・みなさん貴重なお話をありがとうございました。その場所に、声を上げて仲間が集まって、和んで笑っていける環境に取り組まれていることが、強く伝わりました。私も行動して参ります。背中を押されました。
- ・県内の活動がこんなにも活発に行われていることに、新鮮に感じました。
- ・支援方法、相手の気持ちで良い方向に変わる事を、事例を通して教えてもらい、介護保険にとらわれず、就労B型なども色々な方法で支援ができることを学びました。
- ・若年性認知症というと長年、精神障害を持っていた人をイメージしていたが、発症前は不通に仕事をしていた人も多いという事を知った。壮年期だけでなく若い人もいることを知った。働きたい人も多いと思う。認知症は怖い病気、なりたくないというネガティブな気持ち

をもつが、当事者がイキイキとしている姿をみるのは、病気に対するイメージをかえるとても良いと思う。当事者の意見を聞けてとてもよかった。

- ・もっと多くの人に来て頂きたい。各事業所の取組みをしてもらいたい。
 - ・当事者のインタビュー方式でのやりとりはとても良かった。本人が楽しそうに話している姿も、同じ当事者の励みになると感じた。
 - ・若年性認知症の人が社会で、地域であたりまえのように生きるということ、若年性認知症の特徴を理解できた講演会でした。
 - ・若年性認知症のかたに対するイメージが変わりました。行き場があると、とても生き活きされて、人生を楽しんでいるように感じました。
 - ・実践に基づいた中身の濃い話しでした。
 - ・いろいろなチームメンバーがつくっての本人のやりたいこと、夢などをサポート出来るってすごいことだなと感じました。
 - ・すごく楽しい有意義な時間を過ごしました。明日から、子育て、仕事、家事、頑張れそうです。
 - ・広告をみて少し聞いてみようと思ってきました。全く知らない事ばかりでした。今日はきっかけづくりができて良かったです。
 - ・若年性認知症の現状、課題についてとても勉強になりました。
 - ・当事者の活動を知ることができ、明るく希望を持ち生きている姿に感動しました。
 - ・若年性認知症の方への支援の難しさは日々の業務の中でも感じているところです。しかし、今日の講演のようにイキイキと活動されている方がいることは、とても励みになります。また、介護保険サービスと就労サービスの併用は良い学びとなりました。笑顔になれる素敵な講演会をありがとうございました。
 - ・本人達ができることは、まだまだあると感じました。
 - ・当事者の意見が聞けて良かった。
 - ・居場所づくりはとても大事なと心から感じました。フンドウのような場所づくり、増えていきますように努力していきたいです。
 - ・就労支援について、知識がほとんどなかったので、大変勉強になりました。
 - ・フンドウに参加することではなく、自分たちが同じような活動をひとつでも協議体を作ることが大事だと、共感できた。
 - ・当事者のイキイキとした活動に、とても感激しました。
 - ・素晴らしい活動（フンドウ）、自分の住んでいる地域にも、このような活動できるメンバーが増えるように願いたい。
 - ・一昔前の認知症者への就労サービスは盛んではなかったが、色んな選択肢、社会資源が増えていて感じました。当事者の活動が一番の啓発になっていると思います。行政もそこにコストをかけて欲しいと思いました。
 - ・みなさん、キラキラして素敵でした。このキラキラした現在に至るまで大変だったと思います。でもその結果があって今のキラキラに結びついていると思います。
 - ・高齢者認知症の支援でも通じるものが、沢山ありました。当事者の気持ち聞けて良かったです。
- とても良かった。色んな苦悩や葛藤があると思いますが、とても皆さんキラキラしていました。パワフルでした。
- ・当事者の声や事例と課題が見えたのが良かったです。

- ・当事者の方と支援者がとても良い関係で、また楽しそうだった。
- ・できることをサポートすると言うことが印象に残りました。フンドウーさんの実行力が、とてもすばらしい。
- ・一人でなくとも仲間とともに出来る事をする事によって、希望が生まれる。楽しく行けると思います。それで給料がもらえたら最高です。

問. 若年性認知症の方の支援について、あなたのお考えを教えてください。

質問：若年性認知症の方の支援で、就労継続支援事業所の利用は有効と思う。

有効と思う	98.1% (52件)
思わない	0%
よくわからない	0%
無回答	1.9% (1件)

質問：若年性認知症の方の支援で、通所介護（デイサービス）で行う作業活動に対して、謝礼金の発生（有償ボランティア）は、適切と思いますか。

必要と思う	90.5% (48件)
思わない	3.7% (2件)
よくわからない	5.6% (3件)

質問：若年性認知症の方にとって、どのようなサービスが必要と考えますか。

今の制度で実現出来ないことも含め、あなたの考えをお聞かせ下さい。

- ・家族ではとても対応出来ないのでは社会が深く関わらないと行けないと思った。
- ・色々な活動と一緒にを行うサービス
- ・思いを伝えるサポート
- ・やりたいことを一緒に取り組む
- ・まだまだ若年性認知症について知られていないと思います。認知症について勉強会の場所を増やしてほしい。
- ・送迎サポートの支援制度の確立を
- ・外出時の移動手段
- ・重度になった方の家族支援と介護従事者の教育
- ・グレーゾーンの勉強会
- ・若年性認知症コーディネーターが増えたらいいな
- ・マクドナルドで子供からお年寄りまで仕事体験をやっているそうですが、沖縄でも何か出来るそうでは・・・
- ・園児との交流、人との交流、自然との手作業、皿洗い、クリーニング、そうじ、食事提供、一日の時間で午前午後に別れて同じ行動のとれる仕事
- ・高齢者だけ対応のデイサービスだけでなく、若年性認知症の方が利用出来るような施設を作り、職員間の勉強会などを実施する。
- ・介護保険サービスの枠で考えるのではなく、声を反映させる。
- ・やりたいことを実現させる就労の機会、働きたいを応援する仕組みを作っていきたい。
- ・就労事業所、やりたいことが支援を受けながら仕事として役割として任せられ活躍できるようサポートする事業。

- ・私達と変わらない生活ができるようになる。
- ・もっと就労できる場所が必要になってくると思う。もちろん、企業や障がい者サービス等、それぞれの状態像に合った場所はとても大切。そのためには理解も必要だと感じた。
- ・発表のような事業所がもっとふえたらいいなと思います。県や市町村も、担当者だけでなく、もっと協力してほしい。
- ・居場所としての継続した仕事が必要だと思う。再就職のための企業とのやりとりで、難しかった事や工夫した事をいろいろと聞いて、社会参加がしやすい地域作りが重要だと感じた。
- ・充実した育児支援。介護保険や障害福祉制度では本人に対してのサービスであるので、育児中であれば子供達への支援が必要になってくると思いました。
- ・障害福祉サービスを介護サービスとうまく併用できるしくみができたらと思いました。
- ・地域にうまくっているマンパワーの活用ができれば良いと思いました。
- ・話し相手、動物セラピー、動物と積極的にふれあう機会が必要だと思います。
- ・横のつながりを広げて行くために知ってもらうこと。ラジオ番組や新聞のコラム（定期的に）等を活用した方がいいと思います。
- ・本人の能力にあった行き場が必要であると思います。デイケアだけでなく、就労系を含めた職員のスキルアップへの取り組みも必要だと思います。病状の悪化に伴うチームでの切れ目のないサポートが必要だと感じました。
- ・多くの職場で若年性認知症の方が働けるようになってほしいです。
- ・今後、色々な地域への必要性を感じた。
- ・筋トレや脳トレが集中的にできるサービスがあるといいと思います。（デイケアのなかの筋トレとか、単なる運動ではなく）
- ・本人が収益得られる活動。診断直後から切れ目ないサポート体制。
- ・県外のように働きながら、通所に通うこれが不通に広がっていったら、と願います。
- ・作業として、謝礼金を得ることで、当事者のやる気、生きていく力に繋がるので、どうにか制度で認めてくれるように支援したいです。地域で活動する場には、送迎が必要なので行政の役割が多い。
- ・移送サービス、ナイトデイケア、就労を兼ねた若年層が多い施設
- ・移送支援の話しがでたが、活動していく中で多くの人に、認知症を知ってもらう活動・教育が必要と思う。
- ・自分たちでよりよいサービスを作った方が早い。待っていたら、早期治療発見に遅れてしまう。
- ・力を借りてやりたいことができるや、行きたい所に行ける輪ができるといいです。
- ・送迎の課題など、制度の隙間を埋めるサービスの必要性を感じました。
- ・やりたいこと、やれることを見つけていけるサービス。例えば、やりたいと思った事に対して話し合える場所で、自身で届け書を記入でき、選べる、選択できるなど。
- ・就労や支援所、デイサービスなど利用出来る条件が必ずある。年齢や障害度の制限なく、利用出来る仕組み作りができたらと思います。
- ・東京のデイサービスBLGの取組みに感動です。本当に沖縄にそういったサービスが沢山出来て欲しい。PLIFEも各地区にあったらいいな。
- ・その年代にあう通所系サービス（記憶の訓練など）。身寄りのない人の余暇や学習も含めた買い物同行。子供の送り迎え。ハウスキーピングの補佐。

8. 講演会の様子

県内の支援報告 後半：B型事業所例紹介	コーディネーター配置から半年間の支援内容について報告。そのなかで相談件数の多い「利用出来るサービスがない」ということに対して、就労継続B型事業所を利用されているケースを紹介。当日はご本人も会場のみなさんに伝えたいと急遽参加された。「デイサービスしか行けないと思っていたが、B型事業所に通えるようになって、働く事で自分を取り戻したと感じている」と発表された。フロアーにいたB型事業所の管理者より、はじめは後ろ向きな発言も多かったが、一生懸命に働く他の仲間の影響をうけ、自身も前向きな姿勢に変わっていった。後ろ向きな発言は、これまで自分が何を言っても意見は通らないという不満からの発信であったと、責任者は感じたという。しっかり心に向き合って、満たしていけば、自然に言葉も前向きになり、笑顔になると感じていると述べられた。
介護保険事業所発表 ・当時者発表 「小規模多機能施設で働いています」 ・「若年性認知症の方の関わりからみえたこと」	小規模施設で、一般雇用枠として働く当事者の発表では、「職場に理解され、働く事が楽しい。認知症になってもみなさん怖くないですよ」とメッセージを述べた。 前出の当事者が働く施設管理者の発表では、これまで事業所で経験した若年性認知症の方の事例を通して、若年性認知症のかたのニーズに対応仕切れていない現状が伝えられた。若年性であることで障がいと介護保険、児童福祉など制度の狭間に取り組むことも急務であることなど発表された。また前出の当事者の働く姿についてビデオ紹介されていた。
当事者自助グループ発表 ・当事者グループの発表 ・当事者発表 「就労型活動を通して感じること」	認知症カフェで知り合った仲間が、自分たちの行きたい場所がないのであれば、自分たちで居場所を作ろうとはじまった活動について紹介された。NPO法人の企画する基金に応募し、その結果安定した場所が得られ、活動が安定した経緯を報告した。2年目に入る今年は、メンバーのやりたいことに当事者も家族も友人もみんなで取り組み、ますます、メンバーが自分達の活動であり、自身のやりたかったことに取り組んでいる現在を報告した。会場からはどうしたらその仲間になれるのかとあったが、コーディネーターより、このような活動グループが各地にあることが望ましいのではないかと提案した。
介護家族の活動報告	若年性認知症罹患した配偶者を長年介護されてきたご家族は、必要と感じ本土まで研修に行き、リズム体操の認定資格を受けられた。これまの配偶者の介護を通して、認知症の人のリハビリについて常に疑問に思っていたという。それぞれの配偶者は進行とともに重症化されグループホームや施設に入所されているが、今を生きるみなさんに、今を大事に、

	明るく笑顔で行える脳トレとなるリズム体操を普及させたいと活動されている。
--	--------------------------------------

9. 主催者所感

各場所でイキイキと活動される若年性認知症のみなさんに登壇頂き、どのように楽しく活動しているのかを伝えて頂いた。当事者の「認知症になっても働きたい、役に立ちたい」という気持ちを、それぞれの場所で満たされている当事者のみなさんは、とても輝いていた。その姿に、聴講されたみなさんは驚かれていた様子であった。名簿では一般の方はお一人であったが、アンケートでは広告をみて来てみたが、このような現状について知らなかったと感想を述べられている。まだ認知症に対する普及啓発の必要性を感じるコメントであった。

以上